

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年11月13日 (2014.11.13)

【公開番号】特開2012-101038(P2012-101038A)
 【公開日】平成24年5月31日 (2012.5.31)
 【年通号数】公開・登録公報2012-021
 【出願番号】特願2011-218699(P2011-218699)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 3/08 (2006.01)

A 6 1 B 3/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/08

A 6 1 B 3/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月26日 (2014.9.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被検者の視機能を検査するための視標を所定の呈示領域に呈示する視標呈示部と、所定の基準面に対して沈み込んで又は浮き上がって被検者に認識させるための視差を持つ立体視検査視標を含む検査視標を前記視標呈示部に呈示させる制御手段と、前記検査視標を被検者の左右眼にそれぞれ呈示するために、前記視標呈示部に呈示された前記検査視標を左眼用視標と右眼用視標とに分離する視標分離手段と、を有する視標呈示装置において、

前記検査視標は、被検者の立体視を誘導するために、前記基準面に対して沈み込んで又は浮き上がって被検者に認識される視差で、且つ前記基準面から連続的又は段階的に変化する視差を持つ誘導視標を含む、ことを特徴とする視標呈示装置。

【請求項 2】

請求項 1 の視標呈示装置において、

前記誘導視標は、前記呈示領域の外周部から中央部に向かって連続的又は段階的に変化する視差を持つ視標である、ことを特徴とする視標呈示装置。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 の視標呈示装置において、

前記制御手段は、前記誘導視標の視差が徐々に大きくなる方向に時間的に変化するよう、前記誘導視標を動画として前記ディスプレイの画面に表示させる、ことを特徴とする視標呈示装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、上記課題を解決するために、以下の構成を有することを特徴とする。

(1) 被検者の視機能を検査するための視標を所定の呈示領域に呈示する視標呈示部と、所定の基準面に対して沈み込んで又は浮き上がって被検者に認識させるための視差を持つ立体視検査視標を含む検査視標を前記視標呈示部に呈示させる制御手段と、前記検査視標を被検者の左右眼にそれぞれ呈示するために、前記視標呈示部に呈示された前記検査視標を左眼用視標と右眼用視標とに分離する視標分離手段と、を有する視標呈示装置において、

前記検査視標は、被検者の立体視を誘導するために、前記基準面に対して沈み込んで又は浮き上がって被検者に認識される視差で、且つ前記基準面から連続的又は段階的に変化する視差を持つ誘導視標を含む、
ことを特徴とする。

(2) (1)の視標呈示装置において、

前記誘導視標は、前記呈示領域の外周部から中央部に向かって連続的又は段階的に変化する視差を持つ視標である、
ことを特徴とする。

(3) (1)又は(2)の視標呈示装置において、

前記制御手段は、前記誘導視標の視差が徐々に大きくなる方向に時間的に変化するよう
に、前記誘導視標を動画として前記ディスプレイの画面に表示させる、
ことを特徴とする。